



とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名

株式会社チュウブ

所在地

鳥取県東伯郡琴浦町逢東 1061 番地 6

代表者

代表取締役社長 小柴 雅央

業種

建設業

事業概要

芝生の生産・販売・施工・管理・施設運営までを培った技術と国内外で開発される新品種芝生を武器に、鳥取県から全国、そして海外へワンストップで提案する芝生業界の『トップカンパニー』です。

芝生のプロとしてゴルフ場のメンテナンス・コース改造事業、ゴルフ場運営、住宅建築、造園工事、一般土木工事、法面工事、指定管理事業、レストラン事業を展開しています。さらに、令和3年には全国初のコンセッションである鳥取県内四つの県営水力発電所の運營業務に参加致しました。

<2030年に目指す姿>

昭和38年に芝生の生産・販売事業からスタートした当社は、「鳥取のチュウブと言えば芝生」と言われるほど身近な企業となれるよう、引続き品種改良、新品種の開発に取り組んでいます。当社が取り扱っている天然芝には、2019 ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックに採用された「ティフブランド」、「ティフスポーツ」があります。これらに加えて、乾燥に強く低灌水量で生育が可能な環境配慮型の「ティフタフ」と、米国PGA ツアーで多く採用されている均一な高速グリーン「ティフイーグル」の2品種の栽培を開始し、来年からの販売を計画しています。世界最高峰のティフシリーズ4品種は、天然芝の素晴らしさを多くのアスリートに実感していただけると確信しており、令和3年7月に「国際室」を立ち上げ、本格的な海外展開を目的として、海外企業とのアライアンス強化を始めとした天然芝の輸出入をスタートさせ「鳥取県から全国へ、そして世界へ」と業容拡大を目指しています。

また、良質な緑の空間維持管理、芝生事業、緑化事業を通して、地球温暖化抑制に貢献したいと考え、具体的には、耕作放棄地や後継者不在の耕地を芝生畑として再利用する農地の保全、加えて、ゴルフ場の運営、ゴルフ場・スタジアム・指定管理施設のメンテナンス等、緑の面積維持、拡大を目指しています。

少子高齢化人口減少が進む中、今後も芝生産農家の後継者不足により、芝生産面積の維持のため当社による受託生産が増加傾向にあります。また、当社の事業は多岐に渡りますが、敢えて人の手に頼らざるを得ない事業を展開していることから、この美しい地球の表皮である「芝生」を中心とした“緑”を社会に幅広く普及、維持すること、昨今多発している自然災害や地球温暖化による影響から安全・品質を重視した土木工事で暮らしを守り、自然環境を復元すること、指定管理者として地域コミュニティの中核となる公共スペースを守り続けること等、建築・造園・土木・法面工事・法面緑化工事まで、街と暮らしを美しく彩り、災害から命を守るため、地域に安全と安心をもたらす環境に優しい事業を目指しています。

暮らしや環境、地域社会保全に関わる様々な事業活動の継続のためには、2030年にカーボンニュートラルで相応の成果を出し、2040年にカーボンニュートラルを目指すこと、国内外・性別・年齢を問わず、従業員の雇用維持・拡大に取り組むことと並行してバリューチェーンの高度化につなげることが重要だと認識しており、実現致します。

<目指す姿の実現に向けた重点的な取組>

社会8：社会配慮型商品・サービスの提供

経済7：自社以外の経営資源の活用

環境3：【気候変動③】自社の事業活動が引き起こす影響

<重点的な取組推進時のインパクト（正の影響、負の影響）の分析・考察>

◆地域牽引・パートナーシップ構築

社会 8 に記載している「地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手として持続していく」、「地域内外の取引先とより強固なパートナーシップの構築に取り組む」については、「地域未来牽引企業認定」並びに「パートナーシップ構築宣言」の趣意に基づいたうえで、事業拡大・安定経営に取り組んでおり、サプライチェーンが最も重要な業務分野の一つであることは周知の事実である。他方、サプライチェーンとコスト管理はトレードオフの関係にあると認識している。社会の安定、地域経済の発展に寄与し続けていくため、サプライチェーンネットワークの分析と制約条件を踏まえつつ、トータルコストの最適化に取り組み、サプライチェーンデザインの精度を高め、更なる顧客満足度向上を目指している。

◆協力企業や海外芝生先進企業とのアライアンス

経済 7：改正種苗法では、海外への植物新品種の持ち出しが原則禁止。当社が開発した新品種もこれらの規制を受け、現状、輸出へのハードルは非常に高い。こうした中、右記スキームを軸として、協力会社、公的機関、海外の芝生先進企業等の外部リソースの経営資源を活用したアライアンスに基づき、チュウブブランドの海外販売を目指している。また、東南アジアに限らず幅広の海外展開を目指しているが、知財の観点から、経営陣レベルはもとより、現場レベルでの機密情報保持等、信頼できる連携先の選別が前提条件となる(主に国内については経済 6 に記載)。

<芝生業界初の互換栽培プログラム>



◆芝生の生産販売メンテナンスとCO2排出

環境 3：コア事業の一つである芝生の生産から施工・管理までを行う「次世代芝生一貫管理システム」を展開している。天然芝は、熱的環境の改善、運動したいという衝動による運動不足の解消(健康促進)や光合成、呼吸等によるCO₂の吸収、O₂の供給、マイナスイオンの生成等、大気を浄化させる機能を持つ。他方、生産や物流の過程でガソリン等の化石燃料を使っているため、CO₂の排出がある。CO₂排出削減やコスト削減(サプライチェーンの最適化)を目的として、都市圏や都市圏郊外、主に北日本・南日本での新たな圃場展開を目指している(茨城県つくば市に加えて、R2年10月に銚田市に圃場を保有。生産開始)。また、2040年のカーボンニュートラルを目指し、環境面と機会損失を検討する中で、各フェーズで使用する機械等の電動化を都度検討する。

社会(1/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
労働災害の防止	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に社内安全パトロールを実施。課題を洗い出し、即座に改善。その状況を代表者に報告している。 ①部門毎に安全衛生推進者を設置し、安全衛生組織図に基づいて、安全衛生委員会を開催。PDCA サイクルを回している。 ②全体朝礼において安全衛生委員会の内容を周知し、労働災害の防止に取り組んでいる。 安全管理の徹底が品質向上・収益向上に直結していると認識しており、労働災害の発生防止に努めている。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> R6/6: 車両事故件数20件・約5割削減 (R3年度R2/7～R3/6: 車両事故件数39件) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内安全パトロール点検表の継続運用と、形骸化させないため、点検表を必要に応じて改正する。 新入社員・中途社員への安全衛生研修を継続し、労働災害防止に取り組む。 安全衛生大会での安全活動報告、優良社員表彰を継続し、動機付けおよび啓蒙に取り組む。
ハラスメントの防止	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> セクハラ・パワハラの禁止を就業規則に明文化している。 従来から社内相談窓口は設置していたが、相談、通報手段の見直しおよび社内周知が課題として浮き彫りとなったため、改善検討に着手した。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> R6/6: ハラスメント件数ゼロ。 (R3年度R2/7～R3/6: 件数ゼロ) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> R4年度期初に、年度内での社内相談窓口(相談専用メール)の設置と運用開始および社内周知を目指した。(R3/12に運用開始済) ハラスメントの社外研修がある場合、受講を促すことでハラスメント防止意識醸成に取り組む。
女性の活躍	<p><KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 全従業員に対する女性の割合17.6% (R3/6時点) 全管理職に対する女性管理職の割合0.0% (R3/6時点) <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正規・非正規とも性別によらない求人募集をしているが、土木・建築業のイメージが強く、男性のエントリーが大半である。 (「鳥取県男女共同参画推進企業」認定) 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p><KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 全従業員に対する女性の割合18.0% (R6/6時点) 全管理職に対する女性管理職の割合0.3% (R6/6時点) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の占める割合が低調な点は、アナウンス不足が要因であると認識しており、特に事業部門が多岐に渡ることをアピールしていくことによって、女性のエントリー増加および構成比の増加並びに定着を目指す。
障がい者が働きやすい職場づくり	<p><KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用者数6人 (R3/6時点) (※雇用率0.52% R3/6時点) <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターンシップ受入を実施し、定期的に雇用しているものの、自己都合による退職者が相次ぎ、加えて6名雇用の全てが短時間労働者であることから、カウント数は3人となっている。 (「あいサポート企業」認定) 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p><KPI></p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者雇用者数15人 (R6/6時点) (※雇用率2.3% R6/6時点) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等特別支援学校のインターンシップの受入継続による新卒者の雇用促進と、倉吉ハローワークの雇用指導官を中心とした連携強化に努め、雇用者数の増加に取り組む。 倉吉ハローワークの雇用指導官および障がい者就業支援センターとの連携により、R4/3に2カウント、R4/4に1カウントを新たに採用。就業支援連携を継続し、採用増加に取り組む。
多様な人材の活躍	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「就職氷河期世代を対象とした職場実習・体験」事業所として登録している。 外国人材は、関西支社にて技能実習生として3名受入れており、関西支社での新規受入3名を予定している。 制度化していないが、試験的にリファラル採用に取り組んでいる。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人技能実習生(留学生を含む)累計受入数10名 (R6/6時点)。 リファラル採用の制度化 (R6/6時点)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 非正規雇用者も意向を聞く中で、希望者には積極的な正規雇用への転換に取り組む。 令和4年度から令和6年度にかけて外国人技能実習生を新規4名程度の受入を目指す。 金融機関やコンサルタントから官民間問わず、外国人材紹介機関の情報提供を受け、目標達成を目指す。

社会(2/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
多様な働き方の促進	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康経営の推進に取組んでおり「健康経営優良法人(中小規模法人部門)」に認定取得済。 有給休暇の平均取得日数は8.9日(主要事業所の年間休日105日)。 令和3年度は男性従業員1名が67日の育児休業を取得。 <p>(「キャリア教育推進協力企業」認定) (「社員の健康づくり宣言事業所」認定)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「健康経営優良法人」の認定取得継続(R5年度) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敢えて人の手に頼らざるを得ない事業を展開しているが、休日の確保(主要事業所の年間休日105日)、有給休暇取得の啓蒙による有給休暇平均取得日数の維持を目指す。 育児休業取得の取組みは従業員の意向に沿って積極的に推進していく。
労働者への人権配慮	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当社並びにグループ企業にて外国人技能実習生を受入れており、人権保護、労働環境、生活環境に配慮している。具体的には、①協組広域情報センターを活用して、日々の生活や仕事への悩み等をヒアリング。②建設機械施工技能評価試験の取得の実施。③日本食の食事懇親会による文化交流会を開催。④社宅に訪問し、生活アドバイス等を実施している。 R4.年2月、試験的に正社員9名・契約社員1名に対して、厚労省の在職労働者向けキャリアコンサルティングを実施した。 社内相談窓口については、社会2に記載。 当然のことながら、賃金未払、規定外残業等の違法行為を排除し、問題は発生していない。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> R5/6・R6/6:労働者の社会的問題行為ゼロ(R3年度 R2/7～R3/6:上記件数ゼロ) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化人口減、海外進出の過程の中で、外国人労働者受入増加を検討している。こうした中、人権侵害・差別・様々なハラスメントの禁止はもとより、対話による十分な配慮を行うことで、信頼関係を築き、協組)広域情報センターを活用して、失踪や不法滞在を発生させない。 厚労省のキャリアコンサルティングの結果、再度受けたいと「強く思った」と「思った」の合計が8割であり、次年度以降の継続実施を検討中。
社会配慮型商品・サービスの提供	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> H29/12 に「地域未来牽引企業」認定取得。地域経済のバリエーションの中心的な担い手として、事業活動を通じて、顧客満足度を第一義に、地域の発展に貢献できるよう取組んでいる。 R3/2 に取引先の皆様との連携・共存共栄を進めるべく「パートナーシップ構築宣言」を公表。地域社会の一員として、協力会社とともに地域活性化に取組み、持続可能な社会の実現に取組んでいる。ホームページにお問い合わせフォームを設置し、カテゴリ毎に対応している(同時に個人情報の取扱いについて表明)。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 芝生の生産から施工・管理までを行う「次世代芝生一貫管理システム」を展開しており、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手として持続していく(R5年度) <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引続き「お客様第一主義」に徹する。 ①サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を越えた新たな連携、②「振興基準」の遵守、③取引先には不当・不合理な依頼をせず、取引価格についてはデータ(相場)等に基づき合理的に依頼・交渉するという3つの柱を軸に、地域内外の取引先とより強固なパートナーシップの構築に取組む。 安定経営、業容拡大を目指し、地域の雇用創出に取組む。
地産地消	<p>【主な取組】</p> <p>「打吹回廊事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲食施設で使用する季節野菜は地元農家や倉吉農業高校からの直接購入、魚介類は県内漁港で水揚げされたものを仕入れることを基本としている。 可能な限り地元食材を使用することで、地域伝統食文化をPRしている。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光、飲食事業は、コロナ禍で苦戦を強いられているが、「地産地消」と並行して地域食材の「旬産旬消」に取組む(R6年度)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>「打吹回廊事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元食材を見直して、協力いただける仕入農家を増やし、季節野菜の100%地元農家直接仕入を目指す。 食材としての地元野菜活用から、朝どれ野菜の販売まで広げ、料理や季節野菜の販売を通して、お客様への季節感提供を目指す。
地域社会への貢献	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統的建造物群保存地区の倉吉白壁土蔵群内に複合施設として「打吹回廊」を運営。倉吉市街地を360度パノラマビューで見渡せる高さ15mの展望台や中庭はコミュニティの場として天然芝を張った「くらコート」を地域の方や観光客に開放している。(とっとり琴浦熱中小学校・琴浦まちづくりネットワークに参画) 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 倉吉銀座商店振興組合との連携を高め、賑わいのある街づくりを目指す。 とっとり琴浦熱中小学校・琴浦まちづくりネットワークとの連携を高め、機会をいただければ、当社が本店を置く鳥取県(琴浦町)の魅力を全国に発信するチャンネルとして利用する(毎年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光業は当地基幹産業の一つであることから、観光と環境を両立させ、地域活性化につながる持続可能な観光発展を目指す。

経済(1/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
事業継続計画(BCP)の策定	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCP を策定し、定期的に改正している。(直近R3.9.15・第4 版) ・新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを策定。社内安全衛生大会で周知を図った。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な脅威に対処するための予防に加えて、ベンダーの知見を活用し、ディザスタリカバリ対策を意識して事業継続に取り組む。 ・BCPの改正(次回R6年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCP および新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの運用継続と必要に応じて改正する。 ・有事を想定した机上訓練、現場訓練を継続実施し、有事に備える意識醸成に取り組む。
セキュリティ対策	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合脅威管理のセキュリティツールによってサイバーセキュリティ対策を講じている。 ・個人情報管理・守秘義務の徹底等の情報管理は、毎年実施している経営計画発表会や主要会議で周知しており、情報漏洩の発生はない。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の課題は、ベンダーと連携して取り組んでいる。人的教育は、経営計画発表会や主要会議での周知徹底に取り組む(R5年)。 ・R6/6: 情報漏洩発生件数ゼロ。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巧妙化するサイバー攻撃に対して、ベンダー等の知見を活用し、必要に応じて対策強化を目指す。
法令順守の取組の徹底	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令等順守の徹底は、毎年実施している経営計画発表会や主要会議で周知している。令和3 年度の経営計画発表会は、コロナ禍でもあり、規模縮小、一部の県外拠点はリモートでつなぎ、令和3年7月30日に開催した。代表取締役の方針表明の際に、法令順守・規律順守徹底について改めて周知した。 ・原則週初に開催している幹部会において、経営計画書の読み合せにより、法令順守・規律順守の徹底を図っている。 ・法令等順守に抵触する疑義のある事項は、全て顧問士業(弁護士・税理士・社会保険労務士)に相談して対処している。また、顧問士業による研修を実施している。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度期初に、年度内での社内相談窓口(相談専用メール)の設置と運用開始に併せて、内部通報窓口を一本化した運用を目指した(R3/12に運用開始済、毎年運用状況を確認してPDCAを回す)。 ・経営計画書は毎年作成しており、コンプライアンス関連についても取り巻く環境に即して必要に応じて改正する(R5年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧問士業による労務法改正、税制改正等に係る相談と対処並びに研修を継続する。 ・具体的な相談や通報は発生していないが、一本化により情報の集約および社員への不必要な情報拡散防止につながると認識している。 ・法令順守はもとより、企業に求められる社会的な責任は大きくなっている。コンプライアンスを浸透させるためには、定期的に何度でも従業員に教育を行なっていくことが重要であると認識しており、継続実施し、コンプライアンス意識を高める。
情報公開	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、企業情報・会社概要・事業活動等をホームページにてニュースリリースとして情報公開している。 ・ホームページにおいて、採用情報の項目を設けて採用情報を公開している。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥取のチュウブと言えば芝生」と言われるよう、企業アピールと併せて成長企業を目指す。 ・企業情報・会社概要・事業活動等をホームページにてニュースリリースとして情報公開する(R5年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーを含めた関係者はもとより、広く社会へ有益な情報提供、情報発信に努める。 ・具体的には、自社の公式ホームページ、公式動画チャンネル等での情報発信に一層注力する。
後継者の確保	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーナー企業ではないことが、強みであり、弱みでもある。現状、後継者問題は抱えていない。 ・短期的利益のみを追求せず、中長期的な視点で事業経営を実践し、安定経営に取り組んでいる。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社方針の一つに『お客様第一主義に徹し、「喜び」と「満足」を売る企業を追求する』があり、顧客満足度を高め、安定経営に取り組む(R5 年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員とその家族の安定、地域経済の安定のため、中長期的な視点で事業経営展開し、安定経営を高めていく。 ・新規調達、リファイナンス時に金融機関の理解を得て、経営者保証の解除を順次ご対応いただいている。

経済(2/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
コロナなどの市場変化を見据えた対応	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の非日常が日常になりつつある。ライフスタイル、働き方、特に営業スタイルが変化しており、ニューノーマル時代に適応した事業展開に取り組んでいる。 ・具体的には、社内リモート会議が定着。対外的な商談や企業紹介についても慣習化してきた。また、ドローンによる芝生圃場・現場の動画や画像での視察、R4/3に試験的に遠隔管理システム(クラウドカメラ)を数台レンタルして、現場管理への運用を目指している。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現物確認を重視する受注や商材が多いが、対面販売、現場実地視察に固執せず、日進月歩進化しているIT技術導入を積極的に検討し、多方面からのアプローチで導入を模索する(R5年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、県外や海外への移動制限が再発令されることを想定し、IT技術と語学等のフル活用、知恵と工夫で国内外に取引業者を増やすことで、チュウブブランドの浸透を目指す。 ・具体的には、オンライン商談、バーチャル圃場案内、クラウドカメラ等の導入加速を目指す。
自社以外の経営資源活用	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正種苗法による規制等があるが、芝生先進国の企業とのアライアンスや業務提携、研究機関との連携による自社以外の経営資源の活用に取り組んでいる。 ・当社とタイ・バンコクのQGIインターナショナルプロダクツ社は、共にアジア地区の国際芝草遺伝的保証プログラム(ITGAP)の長期優良メンバー。当社は、ジョージア大学が開発したティフブランド、ティフスポーツ、ティフタフを、QGI社では、ジョージア大学が開発したティフイーグルをそれぞれ日本とタイで米国ITGAPの厳しい品種純度管理基準の下で栽培している。サブライセンス契約を結ぶことにより、当社は、QGI社に代わって、日本でゴルフグリーン専用品種のティフイーグルを栽培する正式承認を得た。 ・同様に、成長するアジアのゴルフ、スポーツターフ市場を見据え、QGI社に対して、当社に代わってタイでティフブランドを栽培することについて承認した。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年7月に立ち上げた「国際室」を中心に、社外の貿易コンサルタントを活用しつつ、本格的な海外展開を目的として「鳥取県から全国へ、そして世界へ」と業容拡大を目指す(R6年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正種苗法では、海外への植物新品種の持ち出しが原則禁止されている。当社が開発した新品種もこれらの規制を受け、現状、輸出へのハードルは非常に高い。このような条件下において、当社は、天然芝の貿易実務に精通した協力会社や海外の芝生先進企業等の外部リソースとのアライアンスに基づき、海外販売の活路を見出そうとしている。 ・具体的には、QGI社で需要があれば、当社の品種をジョージア大学から直接タイに輸出するといったアライアンスを結び、経営資源の活用を目指す(逆もまた同様)。 ・海外展開拡充に向け、新規連携先は知財保護の観点からも選別して慎重を期する。
デジタル化による生産性向上	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴルフ場運営・飲食・サービス部門でのキャッシュレス決済導入に取り組んでいる。 ・他方、情報資産や企業間取引のデジタル化が遅れており対策を講じる必要があると認識している。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電帳法改正に対応したシステムを導入する(R5年)。 ・RPAの導入および運用を軌道に乗せる(R6年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の自動化(RPA)、機械化、i-Constructionを積極的に導入し、生産性を向上させ、経営環境、労働環境の改善を目指す。
雇用の維持・拡大	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生産農家の後継者不足により、芝生産面積の維持のため当社による受託生産が増加傾向にある。また、芝生部門に限らず慢性的な人手不足であり、新卒・中途・性別・年齢を問わず、採用活動に取り組んでいる。 ・主に、ふるさと鳥取県定住機構の合同企業説明会に参加し、企業情報および求人情報を発信。その他民間サイトを活用して新卒・中途を問わず、採用活動に取り組んでいる。(とっとり就活ナビ、とっとりインターンシップ、県立ハローワーク等に登録中) 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路にチュウブを選択していただけるよう在学中の学生向けの定期的なインターンシップ受入れを目指す(R5年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大卒向けのインターンシップを主軸に取り組んでいたが、鳥取県内技術系の高校生や高等特別支援学校の高校生向けインターンシップに注力する。 ・合同企業説明会への参加を継続し、鳥取県から全国、世界に発信している企業であることを強くアピールし、雇用の維持・拡大につなげる。
人材育成・能力開発	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年、チュウブマイスター制度という名称で、独自の人材育成・資格取得成度を設けて運用している。国家(民間)資格の取得支援(研修・受検費用の補助、取得奨励金)、資格取得後の資格手当により、能力開発・優秀な人材の安定雇用に取り組んでいる。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュウブマイスター制度の継続運用と必要に応じて改正し、制度の拡充を目指す(次回R6年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営している多岐に渡る事業は、日進月歩で進化しており、ハイスpekな人材育成、人材獲得、人材流出防止は永続的な課題であると認識しており、時代に合わせた十分な支援制度を目指す。

環境(1/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
気候変動リスク／環境負荷リスク・機会の分析・対策		
自然環境の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>i. 近年の気候変動により、自然災害が多発しており、スピーディーな復旧・復興体制を維持していく必要がある。</p> <p>ii. 芝事業への影響として、地球温暖化による寒地型芝草の病害、夏枯れ等の問題が顕著となっている。</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>i. 国策である国土強靱化の使命感を持って事業に取組んでいる。こうしたことから、従業員の定着、雇用維持、拡大に取組んでいる。</p> <p>ii. 夏越しにも対応できる暖地型芝草の開発および利用促進に取組んでいる。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>i ii. 土木・建築・法面工事や法面緑化工事、美しい地球の表皮である芝生を中心とした“緑”によって、街と暮らしを美しく彩り、災害から命を守るため、地域に安全と安心をもたらす環境に優しい事業に取組む(R5年)。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>i. 令和2年には、県外法面業者3社を子会社化した。ジョブローテーションや出向等で、シナジー効果を高め、品質向上やスキルアップを目指す。</p> <p>ii. 当社の芝生専門研究部門である「チュウブグリーン研究所」を中心に、品種改良・新品種の開発等に取組み、天然芝の利用促進、普及を目指す。</p>
社会・制度の変化が経営にもたらす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>・天然芝は、光合成、呼吸等によってCO₂の吸収、O₂の供給、マイナスイオンの生成等の大気を浄化させる機能を持つ。しかしながら、スタジアム等のドーム化で人工芝も普及している。</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>・一例として、日本の約2200のゴルフ場芝生の面積約27万haとした場合の光合成量として、CO₂約460万トン／年(標準世帯230万戸分の年間使用量を火力発電する際に放出される量)、O₂約336万トン／年(成人約1,225万人の年間摂取量)、樹林地からの蒸散水量約11.7億トンといった研究結果があり、天然芝の普及促進に取組んでいる。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>・天然芝を社会に幅広く普及、維持することを目指し、啓蒙活動に取組む(R5年)。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>・今後、脱炭素社会の実現に向け、天然芝の価値と役割について積極的に情報発信、アピールすることで、カーボンニュートラル社会に向けた天然芝のニーズの増加が見込まれる。また、天然芝は、運動時の衝撃を膨軟な茎葉と土壌からなる表層部で吸収し、芝生で整備された公園等は、新たなコミュニティを形成するきっかけとなることから、天然芝の普及に向けて、当社の芝生専門研究部門である「チュウブグリーン研究所」を中心に品種改良、新品種の開発等に取組み、天然芝の普及を目指す。</p>
自社の事業活動が引き起こす影響	<p>【リスク・機会の分析】</p> <p>i. 芝生の圃場は、鳥取県と茨城県つくば市に保有しているが、納品の際の移動によるCO₂の排出がある。</p> <p>ii. 芝刈り機や芝生の納品等はガソリン等の化石燃料を使っているため、CO₂の排出がある。</p> <p>【分析に基づく主な取組】</p> <p>i ii. 都市圏や都市圏郊外の大型スタジアム、競技場、庭園整備の受注およびCO₂排出削減並びに輸送コストを抑えるため、従来からの茨城県のつくば市に加えて、令和2年10月に茨城県銚田市に圃場を保有し、生産を開始した。</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>i ii. 芝生の品種改良・新品種の開発並びに農地確保と並行して、移動距離等の短縮や経営効率の改善に取組む(R5年)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <p>i. 今後は、都市圏や都市圏郊外、主に北日本・南日本での圃場展開を目指す。</p> <p>ii. 長期的な将来像として、芝刈り作業の頻度が減少するような品種の開発や管理機械の電動化対策が必要になると考えているが、当社は機械を製造していないため、商品提供がある都度個別に、環境への配慮および機会損失等を検討し、導入可否の意思決定する予定としている。</p>

環境(2/2) : 株式会社チュウブ

取組項目	現在の取組	今後の目標・目標達成に向けた取組
水資源の適正な管理	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過度な乾燥が国家レベルで問題となったアメリカで、国の威信と20年以上の歳月をかけて育種開発された乾燥に強く低灌水量で、生育が可能な環境配慮型の天然芝である「ティフトン」の栽培をR3年度から国内で開始した。 	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>「ティフトン」はR5年からの販売を計画している。</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で最も優れた節水型芝草品種の導入、ライセンス生産により、節水型品種へ積極的な切替提案・啓蒙活動を行い、水資源の効率的な利用を目指す。
環境配慮型商品・サービスの提供	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 天然芝は、大気を浄化させる機能を持ち、運動後の回復率も早く、持続性も高まる。経験則から緑の芝生は、目や心が癒されることが知られている。また、天然芝の中でも従来品より約4割節水可能な節水型スポーツ用天然芝を国内でいち早く導入し、利用推奨に取組んでいる。 ii. 令和2年に、全国初のコンセッションである鳥取県内四つの県営水力発電所の運営業務に参加し、再生可能エネルギーによる発電事業の発展に協力している。 <p>[M&C鳥取水力発電(株)]</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 環境配慮型の天然芝「ティフトン」はR5年からの販売を計画している。 ii. 新電力に係る経済環境は楽観視できないが、水力発電のスポンサー企業として、再生可能エネルギーの普及・推進並びに電気の地産地消に協力していく(R5年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 芝生に覆われた広場等は、熱的環境の改善、運動したいという衝動等、結果として運動不足の解消や健康促進につながると認識しており、緑化事業の一つである庭園(校庭)緑化の啓蒙・推進を目指す。また、後継者のいない芝生畑を会社において引継ぐことで芝生畑を保全し、耕作放棄地や利用されない耕地を芝生畑として再利用して農地保全を目指し、環境負荷の少ない資材を積極的に導入し、加えて減農薬に努める。
環境面での社会貢献	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験中ではあるが、スタジアムやイベント等で一時的に使用された使用済み天然芝を海浜の公共スペースに再活用するにリユースに積極的に取組んでいる。これにより、人工芝等の劣化が原因となるマイクロプラスチックの海洋流入、海洋汚染防止に貢献している。 <p>(2021/12/23 弊社 HP にて公開)</p>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リユースによる天然芝生事業、緑化事業を通して、緑の面積を拡大し地球温暖化抑制への貢献を目指す(R6年)。 <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サステイナブルな循環型社会の実現を後押しするため、引続き当社の天然芝ビックロールをリユースする実証実験に取組む。